

第114期 中間 株主通信

● 平成28年4月1日から平成28年9月30日まで ●

2016

A CENTENNIAL
ANNIVERSARY

おかげさまで
当社は創業100周年を
迎えました。



TSUBACO
SINCE 1916

椿本興業株式会社

人と技術の架け橋

人間には人間性を、機械には効率を

社 是

吾々は社業を通じて、社会に貢献することをモットーとする。
吾々はその繁栄を常に怠りなき商品の開発と
たゆみなき販路の開拓によって達成させる。

Mission Statement

Our Mission

私達は、長年機械と技術の総合商社として培った技術力を生かし、最適商品のマネジメントにより、産業界の顧客に新たな価値を提供します。

Our Vision

私達は、機械と技術の総合商社として、産業界の未来価値創造企業を目指します。

Advanced Technology for Optimum Machinery
(最先端の技術で最適な機械をお客様に提供します)

Our Concept

1. 私達は、社会に対する公正さを堅持し、地球環境の保全等社会の要請への積極的な対応により、企業の社会的責任を全うします。
2. 私達は、顧客への最適商品の供給を通じて、産業界の発展に寄与し、社会に貢献します。
3. 私達は、常に世界のトレンドと市場のニーズに目を向けて、先端技術商品を取り込み、新市場の開拓を行い、顧客とメーカーの信頼に応えます。
4. 私達は、情報力、技術力、提案力を常に錬磨し、結集して、価値を創造し、企業価値を高めて株主の負託に応えます。

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は本年10月1日に創業100周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様からのご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

ここに当企業グループ第114期中間期（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の業績等につきましてご報告申し上げます。役職員一同、次の100年に向けて社業の発展に努めてまいりますので、株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成28年12月 取締役社長 椿本 哲也

当中間期の連結業績の概況について

当中間期における我が国経済は、円高の進行など金融市場の変動の影響もあり、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。海外においても、中国をはじめとするアジア新興国の経済も足踏みしており、世界的な景気の先行きは依然として不透明な状況であります。

このような状況のもと、当企業グループでは国内外において積極的な受注活動を行いました結果、受注高は前年同期を上回ることができました。

売上高は、若干の減収となりましたが、設備工事における採算管理の徹底や営業費用の削減等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べそれぞれ増益となりました。

通期の連結業績の見通しについて

当企業グループはエリア体制を更に充実させ、目標達成に向けて全力で取り組んでおります。特に、売上原価管理の徹底による売上差益率の維持や、海外設備投資案件の一層の受注拡大に努め、受注額、売上額の増加を目指します。

通期の業績予想につきましては、下記のとおりです。

第114期通期業績予想(連結)

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	90,000	101.5
営業利益	2,350	102.3
経常利益	2,480	102.1
親会社株主に帰属する当期純利益	1,580	102.8

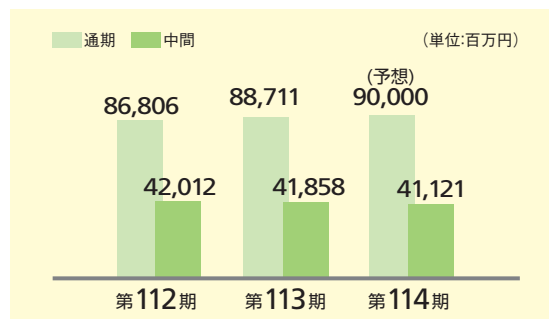
財務ハイライト(連結)

売上高の推移

411億21百万円

(前年同期比 98.2%)

当中間期は、一部の設備工事案件等の売上時期が下期へずれ込んだ影響や、海外における設備投資需要が一巡したことから、若干の減収となりました。

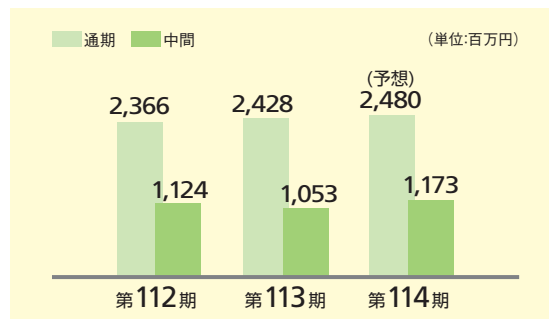


経常利益の推移

11億73百万円

(前年同期比111.4%)

売上高については若干の減収となったものの、設備工事における採算管理の徹底、営業費用の削減などの結果、売上総利益および営業利益は前年同期に比べ増益となり、また営業外費用が前年同期に比べて減少した影響も受け、経常利益についても前年同期に比べ増益となりました。

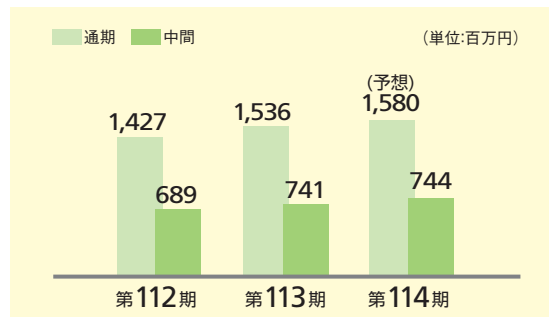


親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益の推移

7億44百万円

(前年同期比100.3%)

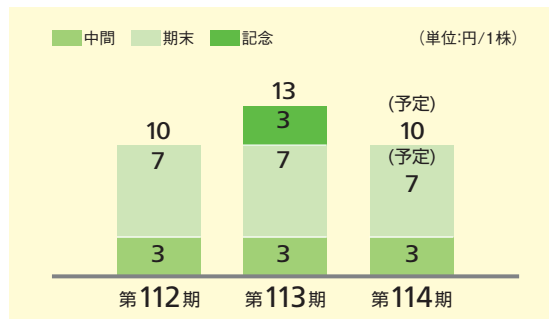
営業利益、経常利益の増益基調を受けて、親会社株主に帰属する四半期純利益も増益となりました。



配当金の推移

中間配当 3 円

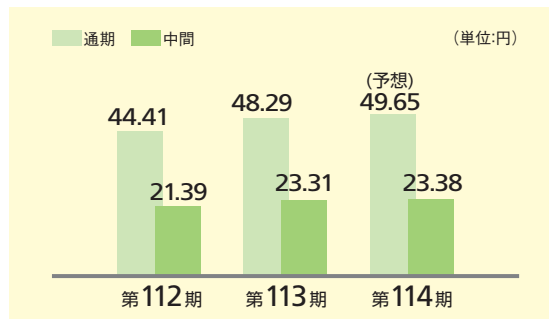
第114期中間期の配当につきましては、昨年同様3円とさせていただきます。業績は順調に推移しており、期末配当につきましては7円を予定しております。



1株当たり四半期(当期)純利益の推移

23.38円

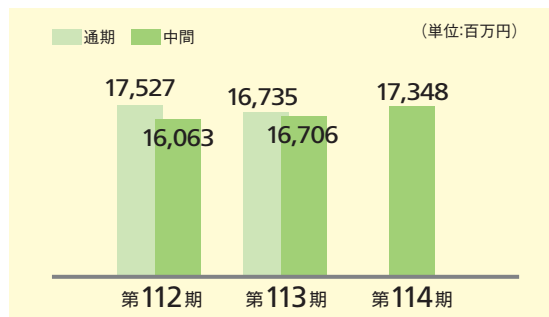
親会社株主に帰属する四半期純利益が増加したため、1株当たり四半期純利益も前年同期に比べ増益となっております。



純資産の推移

173億48百万円

純資産のうち、親会社株主に帰属する四半期純利益に加えて、投資有価証券の時価の上昇に伴うその他有価証券評価差額金が増加し、純資産も前期末より増加しました。その結果を受け、自己資本比率は33.4%となりました。



創業100周年の歩み



2016年10月 当社は創業100周年を迎えました。

多くの皆様に支えられてきましたツバコーの歴史を振り返ります。

1916年10月。椿本三七郎は大阪市内の店舗で、タイヤ、チューブなどのゴム製品のほか、当時の新素材といえる化成品の販売を始め、翌年「椿本工業所」の仮看板を掲げた。

1916
(大正5)

1919
(大正8)

椿本工業所から
椿本商店に社名変更

組織を株式会社に改め
「株式会社椿本商店」に

1938
(昭和13)

社名を
「椿本興業株式会社」とする

1943
(昭和18)

1945
(昭和20)

創業期の取扱商品

エボナイト、ゴムホース類、ファイバーおよびベークライト、椿本チエイン製作所（現 ㈱椿本チエイン）のローラーチェーン、戸畑鋳物㈱（現 日立機材㈱）マリアブルチェーン、そして椿本製ラジオ受信機「アンコール」と米国クロスレイ社から輸入したラジオ受信機を販売した。



椿本製ラジオ受信機「アンコール」

社業の戦後再建

主力商品を化成品からチェーンをはじめとする機械類に。営業拠点を東京、九州、名古屋に拡大したほか、ルートを拡大。



1945年、天六阪急ビル内に事務所を置いた



ポータブルベルトコンベヤ

可搬式ベルトコンベヤ (ポータブルコンベヤ)の試作に着手

顧客のニーズに合わせて、当社で設計、外注し、納入据付を行う技術販売を開始。

1950
(昭和25)

1954
(昭和29)

1962
(昭和37)

1963
(昭和38)

1966
(昭和41)

大阪証券取引所
第2部に上場

東京証券取引所
第2部に上場

創業50周年を迎える

地域密着型拠点として

「販売会社」設立開始。

'66 ツバコー神奈川販売(株)

'67 ツバコー川崎販売(株)

'69 ツバコー横浜販売(株)

経営の近代化に着手し、本部制を導入 技術力を備えた機械商社へ突き進む

第1回日本国際見本市
に出展。主力商品とし
てPIV (チェーン式無
段変速機) を出展し、
「PIVの椿興(ツバ
コー)」といわれる。



第1回日本国際見本市に出展したPIV (チェーン式無段変速機)

創業50周年以降の主要な取扱商品

いざなぎ景気の好調を背景に、
産業界では設備の省力化、自動
化が加速する中、当社でも時代
のニーズに対応すべく自動化省
力化商材(マテリアルハンドリン
グ)のシステム開発に取り組ん
だ。主要商品は、コンベヤからプ
ラント販売、産業用ロボット、産
業機械販売にシフトしていく。



クレーサイロと自動調合プラント

大阪駅前的大阪富国生命ビルへ 本社移転



当時本社のあった
大阪富国生命ビル

1968
(昭和43)

東京・大阪株式市場
第1部に昇格

1971
(昭和46)

ロサンゼルスに
駐在員事務所を開設

当社初の海外拠点となる。

1972
(昭和47)

当社事業所21ヶ所を
数えるまでに成長
(関係会社含む)

石油ショック

1973
(昭和48)

「再建5ヵ年計画」開始

厳しい経営状況ではあったが、
配当を継続。

1976
(昭和51)

シンガポールに現地法人
TSUBACO SINGAPORE PTE. LTD.
設立



設立当時のツバコーシンガポール

1991
(平成3)

1992
(平成4)

創業75周年 社章を一新する

新社章コンセプト

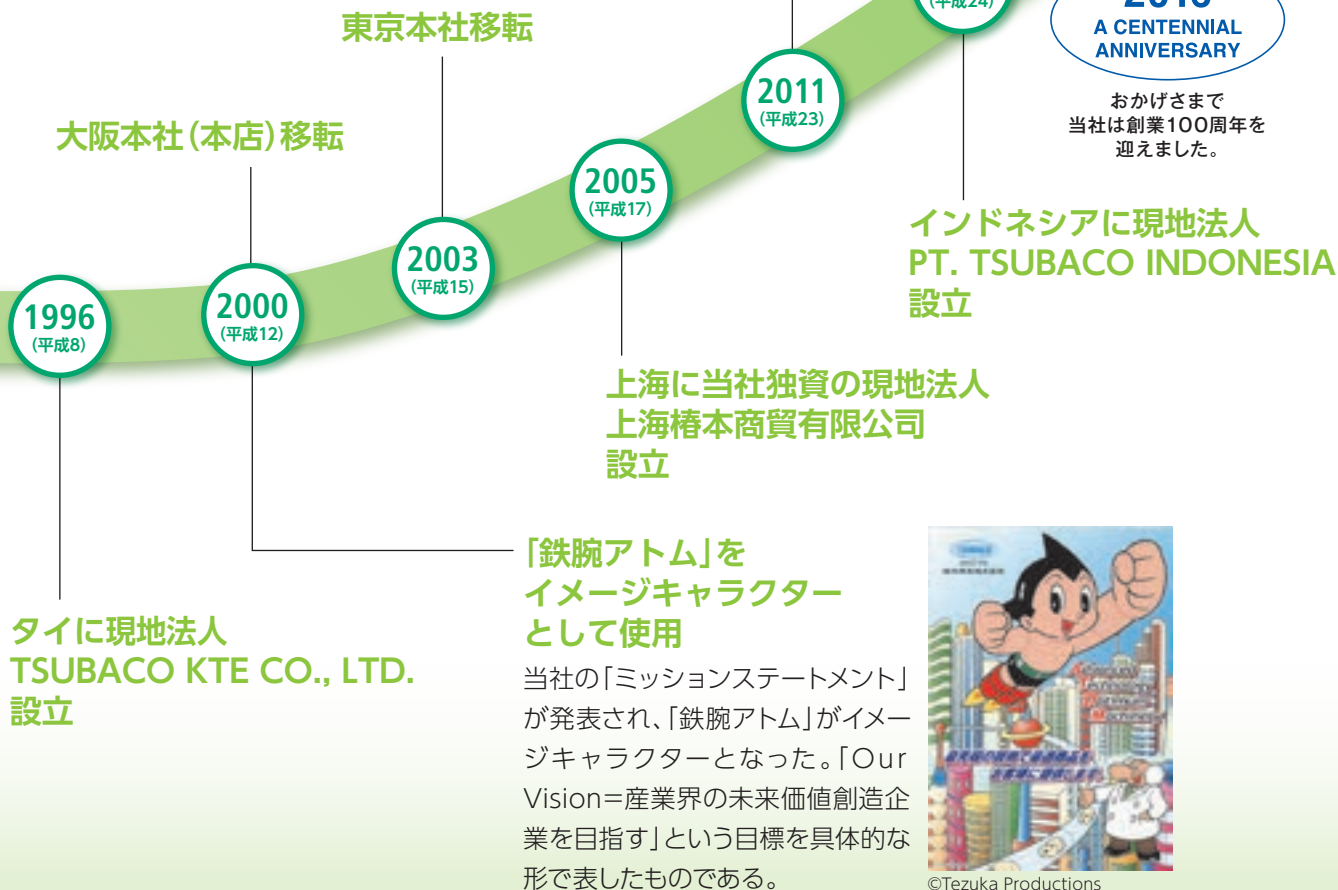
金色は豊かさ＝繁栄を、右上方に向いた
葉は、限らない成長を表し、永遠の繁栄
と限らない進展
のなかで、やが
て真紅の大輪の
椿の花を咲かせ
ようという願い
をこめた。



創業75周年 新社章

事業部制からエリア制への転換

100周年、さらにその先を見据えていく中で、当社グループの強みを最大に活かすため、従来の事業部制からエリア制へと転換がはかられた。これまで事業部ごと、商品ごとに「点」で行っていた営業を、動伝・装置の壁をなくし、同一エリア内の顧客には商品にかかわらずエリア全体で対応していく「面」での営業を目指した。



Topics. 1

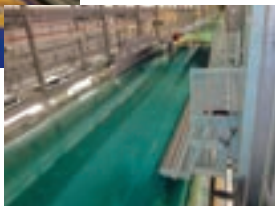
整備新幹線の安全運行に貢献

平成28年3月26日に北海道新幹線が開業しました。当社はこの新幹線の点検・整備を行う函館新幹線総合車両所向けに多数の設備を納入いたしました。特に新幹線のパンタグラフを点検・整備する作業者が、車両屋根に安全に乗り移ることができる「屋根上踏板装置」は、超音波センサで車両高を、光電センサでパンタグラフカバーの有無を判別します。さらに自動で点検に必要な装置を下降させたり、終了後は自動で作業区画外に格納する高性能な装置です。

今後も整備新幹線の車両基地建設が予定されており、機械装置の受注増加が見込まれております。



屋根上踏板装置 (新幹線上部)



踏板ステップが下がっている状態

Topics. 2

お客様のニーズに応えた新規商材商品

不織布は「吸収」「固める」「漏れ防止」等の基本性能から、「紙おむつ」への需要が注目されていますが、当社は化粧品業界へ保湿性にもすぐれており、インバウンド需要の増加で最近活況の「多数枚積層タイプのフェイスマスク」を納入いたしました。

この商品には、プラセンタやツバメの巣エキスなどを配合したいという、顧客ニーズにお応えした商品提案や商品の安全性・安定性の検証への取り組み等、当社の提案力がいかされております。



多数枚積層タイプの
フェイスマスク



不織布原反

Topics. 3

できない課題を解決

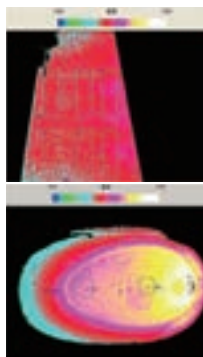
温度測定の手段として、サーモグラフィーという機器がありますが、当社では2色式熱画像計測システム「ThermEra(サーメラ)」という商品を取り扱っております。

この商品は、サーモグラフィーでは必要不可欠な放射率の設定が不要であったり、サーモグラフィーでは成し得なかった、異材質混在時の温度測定やハイスピードカメラを使用した高速状態の測定なども可能にし、自動車業界、鉄鋼業界等に多数納入しております。

なお、当商品は、国内特許も取得しており、今後も需要が見込まれております。



2色式熱画像計測システム「サーメラ」



計測状況

Topics. 4

粉体搬送の課題に挑戦

当社では毎日の生活に欠かせない「小麦」の搬送システムを日本各地に納入しております。

当システムは、約120メートルに及ぶベルトコンベヤで小麦を搬送し、船舶用出荷ローダーで船舶に積み込みを行います。このローダーには左右旋回機能、上下起伏機能、そして伸縮機能が求められました。それはまさに「象の鼻」を連想させます。

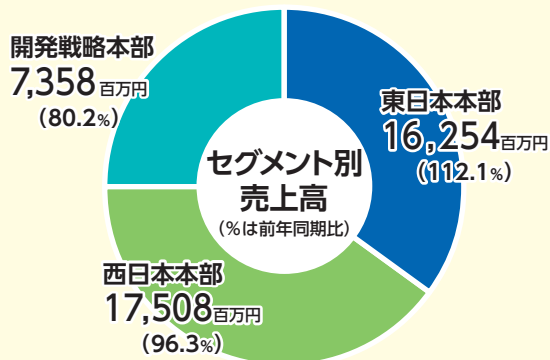
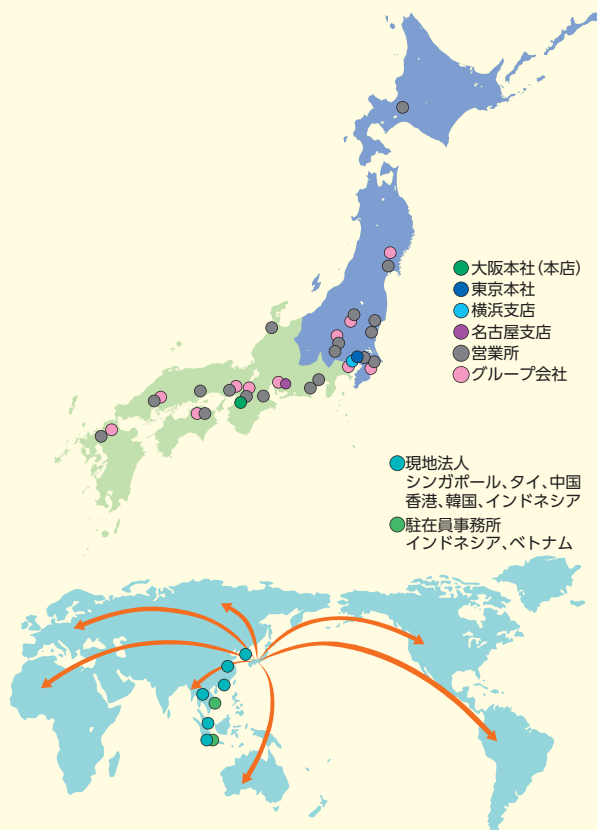
このような、自由度の高い機構をもつ装置は、小麦が内部で閉塞しないような口径寸法の検討、耐荷重の検討など多くの課題をクリアすることが必要ですが、当社の長年の経験や技術力により可能にしました。

今後もこのような制約の多い条件下でのシステムの受注の拡大が見込まれております。



船積用出荷ローダー

セグメント情報



東日本本部

東日本本部は、①東関東・北日本SD②西関東・信越SD③神奈川・山梨SDの3エリアと5つの販売会社により地域密着、顧客密着の営業を展開しております。

当中間期は、医薬品、アパレル関連業界の活発な物流拠点拡大に支えられ、仕分・搬送設備の受注が、食品業界でも新工場の拡大等による保管・搬送設備等の受注が好調でした。自動車業界では引き続き特色のある乾燥・搬送設備を継続受注したほか、IT分野では半導体・液晶製造設備を、環境分野では風力発電設備のコア商品の供給を行った他、インフラ関連として鉄道ホームドアの主要部品、トンネル工事に使用する重量物ハンドリング設備などを受注いたしました。



食品業界向け保管・搬送設備
アキューフレックス Y〇ーY〇ー

西日本本部

西日本本部は、①名古屋支店②京滋北陸SD③関西九州SD④中四国SDの4エリアと6つの販売会社で、「地域顧客の開拓」と「業界需要の拡大」を主体に営業を展開しております。

当中間期は、名古屋地区では堅調な自動車関連業界に加え、高速車両・工作機械からの受注が好調に推移しており、また西日本地区ではフィルム・住宅・バイオマス関連商品の受注が好調で、特に大手フィルムメーカーの海外大口案件を受注しました。各地区、営業基盤の更なる強化を目指し、ロボット、タイヤ、シールドマシン・車両・航空機等のインフラ、化学、食品分野の投資意欲が高い産業への業容拡大と、三重・静岡・九州・瀬戸内地域ならびに富山地域などの営業領域拡充に向け積極的に取り組んでおります。



塗装乾燥機

開発戦略本部

開発戦略本部は、海外ビジネスやマテリアル（産業素材）ビジネス、先端技術開発を担当。

当中間期はテクノマテBDでは、高齢化やインバウンド需要を背景に、介護・安全衛生・医療・アメニティー向けの不織布及び樹脂製品の販売が引き続き順調です。SRSD（海外事業）は6カ国（10拠点）を軸とし、円安による投資低調の中、海外取引顧客数は増加しています。また、新総合カタログの活用で拡販商品を増やすと共に、海外からの優良商品輸入が加速しています。センシング・画像処理ビジネスを推進するATOM BDでは、紙おむつ業界向けに高温計測カメラ、放射温度計、IT・鉄鋼業界では溶接可視化レーザーシステムの受注が好調でした。また、新商品のデジタルマイクロスコープが繊維業界を始め着実に販売実勢が伸びております。



繊維業界を中心に
売上好調な、
デジタル
マイクロスコープ

財務データ (連結財務情報)

連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科 目	第113期期末 (平成28年3月31日現在)	第114期中間 (平成28年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	41,889	39,936
固定資産	10,943	11,504
資産合計	52,833	51,441
負債の部		
流動負債	33,574	31,433
固定負債	2,523	2,659
負債合計	36,098	34,093
純資産の部		
株主資本	13,820	14,245
その他の包括利益累計額	2,685	2,927
非支配株主持分	229	174
純資産合計	16,735	17,348
負債及び純資産合計	52,833	51,441

(注)百万円未満は切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科 目	第113期第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	第114期第2四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	41,858	41,121
売上原価	36,137	35,254
売上総利益	5,721	5,867
販売費及び一般管理費	4,771	4,801
営業利益	949	1,065
営業外収益	172	167
営業外費用	68	59
経常利益	1,053	1,173
特別利益	30	6
特別損失	9	41
税金等調整前 四半期純利益	1,074	1,139
法人税、住民税及び事業税	335	371
法人税等調整額	△26	18
四半期純利益	765	749
非支配株主に帰属する 四半期純利益	23	5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	741	744

(注)百万円未満は切り捨てて表示しております。

企業・株式データ

■ 会社の概要 (平成28年9月30日現在)

社 名 榑本興業株式会社
創 業 大正 5 年10月 1 日
設 立 昭和13年 1 月10日
資 本 金 2,945,915,516円
従 業 員 数 690名(連結)

営 業 内 容 ● 各種機械器具およびその部分品ならびに付属品の販売業
● 各種運搬機械同付属品の販売ならびに運搬機械装置の設計、製作および販売業
● 上記に付帯する据付ならびに工事請負業
● 金属製品、化学製品、窯業製品、木材製品、繊維製品、油脂製品の販売業
● 土木建築工事の測量、設計、管理および請負業
● 上記各営業内容に関する付帯事業

■ 役員 (平成28年9月30日現在)

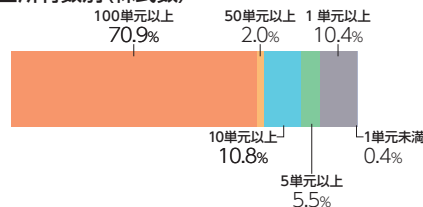
代表取締役社長 榑本 哲也
代 表 取 締 役 石 関 春 夫 営業総括 兼 開発戦略総括
専 務 執 行 役 員 兼 技術室担当
取締役常務執行役員 春日部 博 管理総括 兼 管理本部長
兼 内部監査担当
取締役常務執行役員 伊 藤 弘 幸 東日本本部長
取締役常務執行役員 北 村 完 西日本本部長
取締役執行役員 香 田 昌 司 経営戦略本部長
(企画・広報・コンプライアンス
担当)
取締役(社外) 新 健 一
取締役(社外) 二宮 秀樹
常 勤 監 査 役 山 北 薫
常 勤 監 査 役 大 河 原 治
常勤監査役(社外) 牛 田 雅 也
監 査 役 (社 外) 山 本 直 道

常 務 執 行 役 員 山 村 純 一 郎 開発戦略本部 副本部長
(テクノマテ担当)
常 務 執 行 役 員 京 谷 豊 横浜支店長
常 務 執 行 役 員 藤 重 卓 一 東日本営業本部長 (施工管理担当)
兼 開発戦略本部 副本部長
(ATOM BD担当) 兼 ATOM BD長
常 務 執 行 役 員 瀬 瀬 准 志 西日本営業本部長 (施工管理担当)
執 行 役 員 磯 部 好 伸 名古屋支店長 (施工管理担当)
執 行 役 員 上 山 祥 郎 購買部長
執 行 役 員 中 村 俊 裕 開発戦略本部 副本部長 (SRS担当)
執 行 役 員 植 田 裕 照 管理本部 副本部長
(人事・総務担当)
執 行 役 員 藤 井 誠 人 管理本部 副本部長 (財経担当)
兼 財経部長

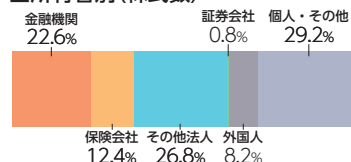
■ 株式の分布状況 (平成28年9月30日現在)

発行済株式総数 32,489,845株 株 主 総 数 3,664名

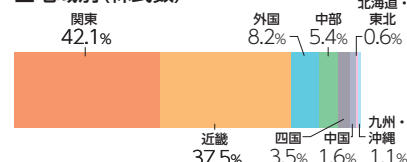
■所有数別(株式数)



■所有者別(株式数)



■地域別(株式数)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日	株主名簿管理人 および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月	株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会基準日	毎年3月31日 (定時株主総会において権利を行使す べき株主の確定日) そのほか、必要ある場合は取締役会の 決議によりあらかじめ公告いたします。	インターネット ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html
配当受領株主確定日		郵便物送付先 電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
期末配当	毎年3月31日		
中間配当	毎年9月30日		
単元株式数	1,000株		
上場取引所	株式会社東京証券取引所 市場第1部	公告の方法	電子公告により公告いたします。 (http://www.tsubaki.co.jp/denshi.htm) ただし、事故その他やむを得ない事由に よって電子公告による公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に掲載い たします。

株主様へのお知らせ

●単元未満株式をご所有の株主様へ

当社は単元未満株式（1,000株未満の株式）の買取・買増請求制度を採用しております。
単元未満株式の買取・買増請求のお手続きをご希望の株主様は、次の窓口までお申出ください。

<お申出先>

- ・証券会社等の口座で単元未満株式をご所有の株主様… お取引の証券会社等
- ・特別口座で単元未満株式をご所有の株主様… 三井住友信託銀行株式会社



SINCE 1916

椿本興業株式會社

〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目3番20号（明治安田生命大阪梅田ビル）

TEL 06-4795-8800（代表）

<http://www.tsubaki.co.jp/>



この印刷物は、環境に配慮し、
植物油インキを使用しています。